

## 2022 年 2 月ハイパーカレンダーレポート

2022 年 2 月 4 日、北京冬季五輪が開幕し日本は 18 個のメダルを獲得した。オリンピックの起源は紀元前 776 年に古代ギリシアにあるオリンピアで始まったとされている。ローマ時代になり、オリンピア進行は異教として禁止されたことが原因で、古代オリンピックは 393 年に終わりを告げる。その後、現代のオリンピックは、フランスのピエール・ド・クーベルタン氏によって 1896 年第 1 回大会がアテネで開催された。クーベルタン氏は「スポーツを通じて平和な世界の実現に寄与する」ことを目的に掲げた。そんな「平和の祭典」の閉幕間もない 2 月 24 日、ロシアがウクライナを軍事侵攻したのはなんとも皮肉なことである。

さて、ハイパー研では「県内小中高特別支援学校への情報モラル授業」を 4 校で実施した。これは長年実施しているネット安全教育推進事業によるもので、オミクロンが猛威をふるい続けていることもあり、Zoom を利用したオンラインとした。ただ、このオンライン授業は本当に面白い。なぜなら教室の電子黒板やモニターに Zoom 画面が映し出されることで、子どもたちが大きく頷いたりサムズアップを見せてくれたりと、ジェスチャーでたくさんのリアクションをとってくれるのだ。これはオフラインより顕著だと感じるし、そんな姿に私のような講師は大変助けられるのである。

13 日（日）は、ホルトホール大分にて、ポストコロナ時代におけるオープンデータ高度利用促進人材プラットフォーム構築事業における「FOP 育成研修」を実施した。これは、エンジニア、自治体職員、住民等、それぞれ立場でオープンデータというものを考え、データと人を繋ぐ、また人と人を繋ぎ人材育成するための研修である。この事業は企画当初より九州テレコム振興センターとコラボ、今回は様々なデータを使って課題を解決するための分析スキルの基礎や手法を、同センターの広岡専務理事が解説した。特別なソフトではなく Excel を使った分析手法のため、すぐに活用できると好評であった。研修の後半は、データ活用時に理解すべき情報モラルやセキュリティについて、ハイパー研の原田研究員が解説した。

23 日（水・祝）には、未来の先端技術活用人材発掘事業における「小中学生向けプログラミング教室@佐伯」をル・パンダ・ハウスで開催、市内の小中学生 10 名が参加した。また、サポーターとして、日本文理大学や大分高度コンピューター専門学校の学生が協力した。4 年目となるこの事業、今年度は初めてトイドローン（Tello）を教材として活用、生徒たちには大人気だった。ドローンってなかなか思い通りにならないけど、実際に見て触るというのが大事で、プロペラの音や風を五感で感じた参加者は、たくさんの笑顔をもって大変素晴らしい時間を過ごすことができた。

（文責：矢野 歩実）